

# たまねぎレポート【第384号】



令和元年10月26日

阪南青果株式会社

## 社内報

9月の天候は、北・東・西日本で気温はかなり高かった。日照時間は北日本と東日本の日本海側でかなり多く、沖縄・奄美でかなり少なかった。また、複数の台風で千葉を始め各地で大きな災害が発生した。10月は雨天・曇天の日が多く、12日には台風19号が接近、上陸、東海・関東地方が再度記録的な暴風雨に見舞われ、甚大な被害が発生した。更に、昨25日には、千葉、茨城、福島県下が記録的な大雨により水害が発生した。今年の9月、10月は天候不順で、数次による台風の接近・上陸で風水害が多発した。

気象庁の11月～1月の3か月予報では、この期間の平均気温は、全国的に高い確率50%。降雪量は、北日本の日本海側で少ない確率50%。月別予報は次の通り。

11月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨亦是雪の日が多い。東・

西日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。北・東・西日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、期間の後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い。

12月、北日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ない。東日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ない。西日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い。北・東・西日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

1月、北日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪の日が少ない。東・西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ない。北・東・西日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

## **主要(市場)の動き**

### **野菜の概況**

9月の建値市場の野菜の販売量は、233,410トン前年比104%で、総ての市場で前年同月を上回った。平均単価はkg¥237前年比90%で数量増の価格安となっている。市場別の販売量と平均単価は、札幌市場の販売量は前年比105%、平均単価はkg¥172前年比90%。東京市場の販売量は前年比103%、平均単価はkg¥257前年比91%。名古屋市場の販売量は前年比104%、平均単価はkg¥231前年比90%。大阪本場は前年比107%の販売量で、平均単価はkg¥232前年比87%。福岡市場は前年比106%の販売量で、平均単価はkg¥201前年比91%となっている。

建値市場の9月の玉葱販売量は25,188トン前年比102%、平均単価は

kg ¥ 81前年比78%で、数量的にはやや増だが価格は大幅安となっている。北海物が主力であったが、今年の早生物は品質に難があり、府県物の安値を引き継ぎ価格は低迷した。市場別の販売量と平均価格は、札幌市場の販売量は4,662トン前年比107%、平均単価はkg ¥ 72前年比83%。東京市場の販売量は9,118トン前年比97%、平均単価はkg ¥ 84前年比78%。名古屋市場の販売量は4,840トン前年比96%、平均単価はkg ¥ 80前年比81%。大阪本場の販売量は4,218トン前年比117%、平均単価はkg ¥ 79前年比75%。福岡市場の販売量は2,350トン前年比108%、平均単価はkg ¥ 90前年比74%となっている。

日本農業新聞社の調査に依ると、全国主要7地区の代表荷受7社の9月の主要野菜14品目の販売量は、108,600トンで前年比5%増、平均単価はkg ¥ 139で前年比12%安、過去5か年の平均値比では11%安となっている。販売量が前年比増の品目は、ニンジンが25%増、ジャガイモ・ナスが14%増、ネギが13%増など11品目。前年比減の品目は、サトイモが23%減、ダイコンが10%減、トマトが9%減など3品目。価格が前年比高であった品目は、結球レタスがkg ¥ 159で前年比10%高、サトイモがkg ¥ 317で10%高、キャベツがkg ¥ 81で8%高など3品目。前年比安となった品目は、ニンジンがkg ¥ 101で前年比38%安。ネギがkg ¥ 299で23%安。ダイコンがkg ¥ 73で22%安など10品目。タマネギの販売量は前年比3%増、単価はkg ¥ 68で前年比20%安となっている。

東京都中央卸売市場の9月の野菜の入荷は、124,781トン前年比103%（前月比99%）。平均単価はkg ¥ 257前年比91%（前月比107%）となっている。主要品目で入荷が前年比増の品目は、キュウリが前年比118%、ニンジンが116%、バレイショが113%など8品目。入荷が前年比減の品目は、サト

イモが前年比88%、ハクサイが94%、タマネギが97%など6品目。販売単価が前年比高の品目は、キャベツがkg¥93で前年比120%、サトイモがkg¥345で106%、レタスがkg¥199で前年比101%など3品目。前年比安の品目は、ニンジンがkg¥120で前年比65%、ダイコンがkg¥87で75%、ネギがkg¥325で76%など11品目となっている。

### 東京都中央卸売市場の9月の入荷量と単価

品目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野菜総数	124,781	102.9	98.8	257	90.9	107.1
たまねぎ	9,118	96.5	98.9	84	78.2	95.5
キャベツ	16,788	99.8	100.7	93	119.8	93.0
レタス	8,928	106.9	91.5	199	101.1	113.1
だいこん	10,109	99.1	122.7	87	75.2	91.6
はくさい	10,177	93.6	140.1	101	90.3	117.4
トマト	6,321	97.6	67.0	463	92.5	189.0
きゅうり	7,946	118.3	94.9	309	78.4	111.6
にんじん	7,122	115.8	98.7	120	65.4	134.8
ばれいしょ	7,129	112.6	116.8	107	84.0	86.3
ねぎ	4,306	104.7	103.5	325	75.7	117.8
かぼちゃ	3,323	126.5	122.2	142	56.0	91.6
ながいも	1,000	113.7	100.6	324	79.1	99.4
れんこん	863	105.8	197.9	439	93.7	73.9
んにく	287	119.5	102.9	797	84.3	96.3

## 玉葱の概況

### 東京市場

東京都中央卸売市場の9月の玉葱の入荷量は、9,118トン前年比97%（前月比99%）であった。北海物が出荷の本番を迎えたが、今年の早生物は品質的に難があり、量販店の特売が少なく、売れ行きは今一つであった。9月は豊作ながら棚もちが悪い府県の即売が終盤を迎え、北海物を待望し期待されたが、劣化が早く品質的に期待はずれとなった。9月は北海物主力の販売で、北海物の入荷は8,478トン前年比103%、占有率は93%で前年比5%アップ。佐賀物の入荷は208トン前年比280%、占有率2%前年比1ポイントアップ。兵庫物の入荷は143トン前年比30%、占有率2%前年比3ポイントダウン。中国物は223トン前年比40%、占有率2%前年比4ポイントダウン。平均単価はkg¥84前年比78%（前月比96%）で前年比、前月比でともに安値となり低迷した。産地別では、北海物はkg¥84前年比78%。佐賀物はkg¥80前年比67%。兵庫物はkg¥107前年比81%。中国物はkg¥92前年比112%となっている。

10月に入り、北海物の入荷は減少傾向でそれなりに捌けたものの、L大の動きが鈍く、在庫が増加状態となった。品質的には棚もちの悪い品種が順次減少し、オホーツク222に移行したことで、安定化に向かったが、裏相場はL大が¥1,100に落ち込み、販売環境は厳しさを増した。中旬には台風の影響で鉄道便が乱れ、入荷は減少したにも拘わらず、品不足にはならず、在庫が片付き荷凭れ感は解消された。入荷減と品質の安定化と相俟って、相場は回復に転じた。今週に入り、鉄道便も正常に復帰したが、荷動き鈍化で、価格維持が厳しくなっている。10月上旬+中旬の販売量は、5,915トン前年比86%、平均単

価格はkg¥81前年比79%。産地別では、北海物は5,719トン前年比88%、平均単価はkg¥80前年比79%。中国物は145トン前年比46%、平均単価はkg¥89前年比106%。兵庫物は45トン前年比79%、平均単価はkg¥129前年比87%で、数量減の価格安となっている。

### 名古屋市場

名古屋中央卸売市場の9月の玉葱販売量は、4,840トン前年比96%(前月比90%)で前年比前月比ともに減少した。主力は北海物で、販売量は4,644トン前年比97%、占有率は96%で前年比1ポイントアップ。兵庫物の販売量は93トン前年比85%、占有率は2%で前年と同じ。滋賀物が67トン前年は入荷なし、占有率は1%。総平均単価はkg¥80前年比81%(前月比95%)で前年比、前月比ともに下回っている。産地別では、北海物はkg¥80前年比81%。兵庫物はkg¥67前年比55%。滋賀物はkg¥97で前年は販売なし。

10月に入ってから、北海物の入荷は順調であったが、相変わらず荷動きは鈍く、在庫も殆ど減少せず、荷凭れ状態が続いた。需給改善には販売量の調整が必要とされ、産地に出荷調整を要望したが、入荷に変化はなかった。中旬になり、台風の影響で輸送が乱れ、今もJRコンテナ一便の不安定化が続いている。トラック便中心の入荷で数量的には少なめだが、荷動きが今一つで品薄状態には至っていない。在庫もほどほどで、どうにか価格を維持しているものの、転送業者からは安値の売り込みがあり、仲卸の間では先安ムードが台頭し、販売環境は厳しくなっている。兵庫の冷蔵物が、レタス便との積み合わせで少量の入荷があるが、割高で売れ行きが悪く在庫となっている。当面、相場が上昇に向かう材料はない。

### 大阪本場

大阪中央卸売市場本場の9月の玉葱の販売量は、4,218トン前年比11

7%(前月比104%)で販売増であった。府県産が終盤を迎え減少したが、北海物が本番を迎え増加した。主力は兵庫物から北海物に移行した。北海物の販売量は2,190トン前年比104%、占有率52%前年比6ポイントダウン。兵庫物は1,214トンで前年比132%、占有率29%で前年比3ポイントアップ。和歌山物は585トン前年比229倍で占有率14%。月平均単価はkg¥79前年比75%(前月比95%)で、前年比前月比ともに下回った。産地別では、北海物はkg¥77前年比74%。兵庫物はkg¥86前年比61%。和歌山物はkg¥67前年比87%となっている。

10月に入り、産地側も市場側も相場の回復を計る動きが台頭、兵庫の冷蔵物の産地関係者の間では、10kg・L¥1,000以下は出荷を見送る動きとなったし、北海物の産地からは、仕切値20kg・L大¥1,500、L¥1,400を要望され、荷受けでは実勢値の販売は赤字が大きく、JA系・商系を問わず何れの銘柄も¥1,300以下は売り止めとし、相場の底上げを図った。双方の努力で市況は回復に転じた。時期を同じくして、台風の接近・上陸予報で引き合いが強まったことも追い風となった。月半ばには、台風の影響で輸送が乱れ、特に、東北本線が浸水で不通になり、鉄道便の入荷が中断した。入荷減から北海物、兵庫物ともに、下値が少なく上値が多くなり堅調市況が続いた。今週に入り、輸送事情が正常に復帰したことで、入荷は増加傾向となり、価格維持が困難になった。入荷は「オホーツク222」が主力になり品質は安定化したが、荷動き鈍化で流通段階での滞留が出始めた。荷受けサイドから産地に対し、早い機会の出荷調整を要望している。10月上旬+中旬の販売量は、2,076トン前年比88%、総平均単価はkg¥80前年比74%。産地別では、北海物は1,478トンの販売量で前年比80%、平均単価はkg¥76前年比75%。兵庫物は466トン前年比100%、平均単価はkg¥96前年比69%となっている。数量減の価

格安で、販売環境は再び厳しくなっている。

## 福岡市場

福岡市中央卸売市場の9月の玉葱の販売量は、2,351トン前年比108%（前月比108%）で、前年比前月比ともに増であった。佐賀を始め九州管内産が、終盤で主力は北海産に切り替わった。主力の北海物の販売量は1,700トン前年比120%、占有率は72%で前年比7ポイントアップ。佐賀物は595トンで前年比100%、占有率11%前年比1ポイントダウン。長崎物は147トン前年比180%、占有率6%で前年比2ポイントアップ。総平均単価はkg¥90前年比74%（前月比113%）で前年比前月比高であった。産地別の平均単価は、北海物はkg¥89前年比72%、佐賀物はkg¥79前年比62%。長崎物はkg¥109前年比81%となっている。

10月に入って、北海物のウエイトが更に高まった。入荷はJA系統中心で順調であった。他市場から、早生系の品質劣化が問題視されていると聞いていたが、福岡市場では入荷日即日完売に努めて来たので、クレームも殆ど発生しなかった。月半ばまで早生物の入荷が続いたが、品質不良の印象は起きなかった。月後半は台風の影響で輸送が乱れ、入荷減が続いたが、荷動きは今一つで品薄感はなく、どうにか捌けた状態である。常連客には他市場の価格を勘案して、下値価格で販売し、常連客以外は極力上値価格で販売した。現在、商系や転送業者から積極的な売り込みがあり、着値L大¥1,350、L¥1,300の提案だが、手を出していない。香川の冷蔵物は隔日に10トンの入荷だが、品質良好で順調に売れている。10月1日～19日の販売量は、1,507トン前年比88%、平均単価はkg¥85前年比82%となっている。此の先、引き続き軟調相場が続くような雲行きである。



10月25日(金)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷215トン 弱保合

北 海 20kgDB2L ¥1,600～ L大 ¥1,700～1,300、 L ¥1,550～

M 入荷なし

北 海 20kgNT2L ¥1,000～ 900、 L大 ¥1,100～1,000、 L ¥1,000～ 950、

M ¥850 ～ 800。

【太田市場】 入荷314トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥1,500～1,400、 L大 ¥1,600～1,500、 L ¥1,400～1,300、

M ¥1,300～1,200。

【名古屋北部】 入荷176トン 強い

北 海 20kgDB2L ¥1,500～1,400、 L大 ¥1,600～1,500、 L ¥1,500～1,400、

M ¥1,300～

兵 庫 10kgDB2L 入荷なし L ¥1,200～1,100、 M ¥1,200～1,100。

【大阪本場】 入荷34トン 強保合

北 海 20kgDB2L ¥1,500～1,400、 L大 ¥1,600～1,500、 L ¥1,500～1,300、

M ¥1,300～

兵 庫 10kgDB2L ¥900 ～ 700、 L ¥1,200～ 900、 M ¥1,200～ 900。

【福岡市場】 入荷81トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥1,800～1,500、 L大 ¥1,800～1,600、 L ¥1,700～1,500、

M ¥1,600～1,500。

香 川 10kgDB2L ¥900 ～ 800、 L ¥1,200～1,100、 M ¥1,100～1,000。

## 供給(産地)の動き

9～10月の安値市況を反映して、北海道産、府県産ともに出荷は後ズレ傾向である。特に、豊作型となった北海物の産地在庫は前年に比べかなり多い。一時期、早生は豊作だが中晩生は平年作と言われていたが、ホクレンの直近の調査では、生産量は前年比112%、出荷量は116%と報告されている。10月末までの出荷量は、前年を数%程度の上回りにとどまり、計画量を下回っている。輸入物については、前年比2桁の減少が続いており、引き続き同程度の減少が続くと見ている。

全玉連の9月の調査では、10月から翌年4月までの供給見込み量を625,018トン前年比101%と予想している。内訳は府県産貯蔵物が28,318トン前年比109%、北海産移出が390,000トン前年比109%(その後、ホクレンの直近調査では、出荷予想は通期(周年)で701,460トン前年比116%と上方修正されている)、輸入物は161,700トン前年比89%、府県産早生が45,000トン前年比82%。と予想している。

### 府県産地

冷蔵物の主力産地淡路島の冷蔵物の出荷進捗率は、出荷者別ではバラツキがあるものの、総体的には来春3月までの計画出荷を基本としている向きが多く、在庫は前年を上回る。今年は豊作で肥大球が多く、出荷は3Lは加工筋に、2Lは加工筋と市場向けに、LとMは市場向けに出荷される構図になっている。今年は豊作で増収になったものの、品質的にやや難があり、現在も平均的なロス率は10%前後で、平年に比べ相当に高い。特に、晩生種の「もみじ」と「かがやき」の鱗片腐敗は、外見は正常で判別が厄介である。冷蔵物は入庫時の市況安で、廉価で入庫が出来たものの、採算に乗るのはLとMサイズで、3Lと2Lサイズは価格安で採算割れになっている。生産者の間では、来シーズン

に向けて極早生の定植作業が始まっている。早生の主力を占める「レクスター」の作付は前年比1.5倍の増反が予想されているほか、極早生の「スーパーアップ」も増反が予想されている。天候不順で一部で苗立ちの不良はあるも、作付面積は前年並みになると予想されている。

佐賀では、冷蔵物以外の出荷は終了し、次シーズンの定植期を迎えている。現在、早生系のマルチ栽培のマルチ張り作業の最盛期である。今年は播種期（初秋）の気温が高く、発芽不良を避けるために、播種作業を平年より先送りすることにした。播種後は、台風の影響で風水害に見舞われ、ポット苗がかなりの被害を受け、苗立ちが悪く、定植遅れに繋がった。慣行の育苗は概ね順調であるが、定植作業は平年よりも遅れる予想である。中心産地の白石地区では、生産者の種子購入量は、昨年より10%程度減少している。更に、苗立ちの不良に加え、昨年度は病害対策に費用と時間が掛かったにも拘らず、市況安で生産性が低下し、栽培意欲が減退している等で、作付け面積は前年比20%前後の減反になるとの説が大勢を占めている。

その他の産地の詳細情報は入手していないが、旧来産地の作付は前年並みかやや減反、新興産地は増反になると予想している。

#### 北海道産地

北海道産の収穫は終了し、生産者段階では、出荷と倉入れに向けて粗選別と風乾作業に追われている。作柄は全道的には豊作型で、昨年不作であった空知と上川も平年作と豊作になった。昨年も豊作型であった道東は、昨年を上回る豊作となった。8月前半の極早生のお荷は府県産の在庫増でやや遅れたものの品質的には問題はなかった。8月後半から出荷が始まった早生は乾腐病と軟腐病の罹病が多く、厳選するも市場で腐敗が散見され、小売店では品質劣化で棚もちが悪いとクレームが続出し、人気を落とした。10月半ばからは優良品種に切り替わり、品質が

安定化した。8～9月の出荷は計画を下回ったものの、品質劣化や他野菜の安値などの影響で、販売環境が厳しく、玉葱市況は近年にない安値に落ち込んだ。10月は、関東に接近・上陸した台風19号の影響で輸送が乱れ、出荷は停滞したが、市況は回復に転じた。此処数年は市況の暴落はなく、再生産価格を上回っていることで、産地関係者の間では、相場に対する危機感が乏しく、いずれ市況は好転するとの期待感が強い。市場関係者の感覚とはかなりのギャップがある。オホーツク222の球流れは概ね、北見で2L19%、L大53%、L22%、M2%、その他4%。岩見沢で、2L5%、L大35%、L46%、M10%、その他4%とされている。

#### 輸入動向

9月の輸入は、速報値で20,753トン前年比83%。北海産の生産増と安値市況を反映して前月に続き2桁の減少となった。殆どが中国物で輸入量の99%を占めている。国別では中国が20,547トン前年比84%。アメリカが206トン前年比34%となっている。

中国、現在の日本向け産地は甘肅省で、栽培面積は前年比大幅な減反となっている。昨年の安値で農家の栽培意欲が減退したことが原因とされている。生育は順調で作柄は平年並みと言われている。生産量は減反の影響でかなりの減少が予想されている。国内マーケット向けの並品の価格は軟調傾向で推移しているが、輸出向けの良品の産地価格は、堅調に転じていると言う。現時点の日本向け価格は、20kg・C&F・剥き玉 \$6.60、皮付き玉葱 \$5.80 である。輸入商社の間では、今後の需給関係や値動きは不透明で、予測は難しいと話している。

アメリカ、日本向け主力産地のワシントン州の生育は、播種期の3月の雪解けが遅く、作業は2～3週間遅れたが、その後の天候が順調で、作柄は平年作でほぼ前年並みの収量確保が出来た模様。現在、国内マーケットは50㍑・Jサイズ \$7.00 の水準で推移。日本向けはリーファーコンテナ積・C&F・ \$11.25 である。

## 11月の市況見通し

10月半ばには、台風の影響と産地・市場側賀の市況対策で、市況の好転を見たが、結果は束の間で現在は軟調に転じている。現状の需給を改善するには、加工向けを増やして輸入の大幅減を計るか、春夏期の4～7月向け販売用の貯蔵量を増やすか、余剰量は廃棄覚悟で出荷調整をするか、だと思ふ。現状持続では、市況の好転は厳しく、北海物20kgL大¥1,500～1,300を予想。(了)